

発行：「エコテックス (CSM[®]-2000) 標準研究フォーラム」 広報委員会

〒105-0003 東京都港区西新橋 1-14-7 山形ビル3階

TEL 03 (3504) 9800 FAX 03(5157) 3180

E-mail eco-texj@k9.dion.ne.jp

URL: www.eco-tex.com

2004年

1月5日

発行

新年明けましておめでとうございます。

本年も、「エコテックス (CSM-2000) 標準研究フォーラム」
を宜しくお願い申し上げます

本年度は、「CSM-2000」の新バージョンを柱として、C o Cを加えた「サプライチェーンに於けるコンプライアンス・リスク・マネジメント」の研究を進めてまいりたいと考えております。

更に、「第二回コンプライアンス国際セミナー」(4月9日)を開催し、関係する方々に、「CSM-2000」の一層のご理解を賜りたく存じます。
何卒、宜しくお願い申し上げます。

第11回『セミナー』のご案内

日時：1月23日(金曜日)午後2時～6時(5時から懇親会)

場所：エコテック・ジャパン株式会社

テーマ

- ① CSM-2000新バージョンの紹介
旧バージョンのバージョンアップ(追加された事項)の背景と内容
- ② CSM-2000「ガイドライン」
CSM-2000の要求内容、定義を基にCSM-2000が目指す「システム」の概要を研究します
- ③ C o C近況

尚、今回は、セミナーに先立ち、12時より、

「第四回研究評価委員会」と「第四回セミナー委員会」を開催させていただきます。

お忙しい時期とは存じますが、是非、スケジュールを調整して頂き、ご出席ください。

恐れ入りますが、『本セミナー』および『研究評価委員会』『セミナー委員会』ご出席の方のお名前を16日(金曜日)までに事務局にお知らせ下さい。
ご協力をお願い申し上げます。

企業紹介は、

消費科学研究所様、東レ株式会社様をお送りさせていただきます。

尚、消費科学研究所様は、容量の関係で添付資料の形式でお送りいたします。

宜しく願いいたします。

東レ株式会社

東レは世界 18 カ国・地域でグローバルな事業活動を展開しています。有機合成化学、高分子化学、バイオケミストリーをコア技術として、繊維、プラスチック・ケミカルなどの基盤事業に加え、情報・通信機材事業、住宅・エンジニアリング事業、医薬・医療材事業、複合材料を主力とする新事業等を展開する総合化学企業集団です。

会社概況

設 立	1926 年（大正 15 年）1 月
代表取締役社長	榊原定征
資本金 (平成 15 年 3 月末現在)	96,937,230,771 円
従業員数 (平成 15 年 3 月末現在)	東 　　レ 　　： 7,790 人 国内関係会社： 8,751 人 海外関係会社： 17,250 人 合 　　計 　　： 33,791 人
主要な事業内容	下記製品の製造および販売
	繊維 ナイロン、ポリエステル、アクリル等の糸・綿・紡績糸および織編物、不織布、人工皮革等
	プラスチック・ケミカル (下記「情報・通信機材」に含まれるフィルム・樹脂製品を除く。) ナイロン、ABS、PBT、PPS、POM、LCP 等の樹脂、ポリオレフィンフォーム等 ポリエステル、ポリプロピレン、PPS、アラミド等のフィルムおよびフィルム加工品等 合成繊維・プラスチック原料、石膏等 ゴム・樹脂添加剤、ゼオライト触媒、医・農薬原料等のスペシャルティケミカル、動物薬等
	情報・通信機材 磁気記録材料、電子・電気部品用等の情報・通信機器関連分野向けフィルム・樹脂製品等ならびに電子回路・半導体関連材料、印写材料および同関連機器、光ファイバ、液晶用カラーフィルター等
	新事業その他 医薬品および医療製品、炭素繊維・同複合材料および同成型品、水処理用機能膜 および同機器、環境関連機器、建築・土木材料、オプティカル製品、ファイナセラムックス、各種 エンドプロダクツ等

<p>本社 〒103-8666 東京都中央区日本橋室町 2-2-1 東レビル Tel: 03-3245-5111(代表) Fax:03-3245-5555 03-3245-5115(商品案内)</p>
<p>本社 (第 2 本社ビル) 〒279-8555 千葉県浦安市美浜 1-8-1 東レビル Tel: 047-350-6001(浦安総務課) Fax:047-350-6075(浦安総務課)</p>
<p>大阪本社 〒530-8222 大阪市北区中之島 3-3-3 中之島三井ビルディング Tel: 06-6445-4101(代表) Fax:06-7688-3774 06-6445-4102(商品案内)</p>

繊維事業



東レグループは、3大合成繊維と呼ばれるナイロン、“テトロン”（ポリエステル）、“トレロン”（アクリル）のすべてを製品として取り扱っており、原糸・原綿としてだけでなく、テキスタイル、製品として市場に供給しています。用途も衣料用からタイヤコード、漁網などの各種産業用まで幅広く展開しています。現在、グローバルな生産体制の見直しを行い、より高収益な事業体質への構造転換を進めています。また、中国や東南アジア及びヨーロッパにおける海外生産を増強しつつ「適地生産・適地販売」を目指すとともに、今後更に、新しいSCM（サプライチェーンマネジメント）の構築、ソリューションビジネスのモデル構築など新しい価値を創造する事業形態への転換を果たしていきます。

技術開発部署の一例

テキスタイル開発センター

テキスタイル開発センターは、1981年（昭和56年）に設立され、ファッションテキスタイルや機能テキスタイルなど衣料および衣料周辺において生活文化の向上に大きく貢献している繊維製品を対象に、加工技術開発とそれに基づく新製品の開発を担っています。

当センターで開発した商品は、実用に即した厳しい品質評価・品質管理を行います。より優れた衣服の創造を目指して、日々、糸から縫製技術に亘る幅広い技術を駆使した新製品開発に取り組んでいます。特に、快適な衣料製品開発のためには、人工気象室“テクノラマ”を用いた厳しい性能評価を実施しています。“テクノラマ”は地球上のあらゆる気象環境を再現することが可能で、保温性、防風性、清涼性などの性能を検証し、その結果をテキスタイルおよび衣服設計にフィードバックしています。



人工気象室“テクノラマ”における
ジャンプスーツの実験風景



“シルクデュエット”

当センターは次の7項目について、開発及びサポート業務に取り組んでいます。

- 糸、織布、編成、染色仕上げおよび衣料化関連の革新生産技術
- 新規テキスタイル、衣料関連資材および最終製品の設計・加工技術
- 新素材・新商品の設計および試験評価
- 技術情報、資料の収集・分析
- 販売に対する拡販技術援助および苦情処理の技術協力
- 国内外繊維関連工場に対する加工技術および商品開発の援助
- 将来の加工技術分野を担う若手技術者の育成

これらの活動にあたっては、消費者の個性化・高度化ニーズについて綿密な市場調査、各種の情報収集・分析を実施し、将来の明確な技術予測を基に、糸加工から染色仕上げ加工、縫製に至る生産技術の開発を行い、市場変化に的確に対応する新商品の開発に結びつけています。

以上

